

聖書箇所：ルカの福音書 11 章 27～36 節

説教題：見なさい。ここにいます。

## 1 幸いな人たちは

(1) 南の女王はソロモンの智恵を聞く (第一列王記 10 章 9 節)

イエスは 28 節でこう語ります。「幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです。」その実例として、旧約聖書の中からふたりの人物を取り上げていきます。ひとりには南の女王で、もうひとりにはヨナと呼ばれる人です。

イエスが南の女王と呼ぶこの人は、旧約の中ではシェバの女王として出て来ます。ソロモンの時代のことが、彼がすばらしい智恵を語っていることをうわさを聞いたシェバの女王は、ソロモンを訪ねソロモンに難しい質問を投げかけます。ソロモンがすべての質問に完璧に答えるのを見た、シェバの女王は神を信じ、このように告白します。「あなたを喜ばれ、イスラエルの王座にあなたを着かせられたあなたの神、主はほむべきかな。」シェバの女王はイスラエル人ではありません。異邦人です。けれども神のことばを聞いたとき、神を信じる者となりました。

(2) ニネベの人々はヨナの説教で悔い改める (ヨナ書)

次にヨナです。あるとき彼が乗っていた舟が嵐に遭い、遭難しそうになってしまいます。当時、人を犠牲としてささげれば嵐は鎮まるかもしれない。そんな迷信がありました。ヨナはその犠牲に選ばれてしまい、海に放り込まれます。ところがヨナはそのあと魚に飲み

込まれ、三日三晩魚の腹の中で過ごしたのちに、岸に放り出され、九死に一生を得ることになります。そんなことがあってから、ヨナはニネベに向かい、悔い改めなければまもなくさばきがやってくると、宣伝しました。これを聞いたニネベの人たちはすぐに応答し、悔い改めのしるしとして荒布をかぶりまします。そのようにしてニネベの人たちが救われたという事情がヨナ書に書かれています。

イエスは旧約から二人の自分物を具体例として取り上げ、このような人たちこそ幸いな人たちであると語ります。

(3) ここにまさった者がいるのです。

ところが、イエスのことばはそこで終わりません。南の女王とヨナのことをジャンプ台にするようにして、31 節と 32 節の最後に同じフレーズを繰り返します。「ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。」「ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」いったいこれはどんな意味なのか、またあとで触れたいと思います。

## 2 しるし

(1) ヨナのしるしのほかは与えられない

イエスは続けて語ります。29 節。「この時代は悪い時代です。しるしを求めているが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」

29 節の「しるし」ということばに米印がついていて、聖書の欄外に「証拠としての奇

蹟」という意味であると説明があります。

皆さんはどのようにして神を信じるようになったのでしょうか。何か大きな奇蹟を経験して信仰者になりましたか。驚くべき奇蹟は起きなかったけれど、不思議なことに神を信じる者となった。そのような方が多いと思います。

イエスが私たちに与えてくださったのは奇蹟ではありません。その代わりに、ヨナのしるしが与えられていると言います。ヨナのしるしとは何でしょうか。いくつかのことが書かれています。まず 30 節。「というのは、ヨナが、ニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。」 32 節。「ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。」

ニネベの人々が悔い改めたのは、大きな奇蹟を見たからではありません。ヨナが語ったさばきのことばを聞いたことがきっかけでした。ヨナが語ることばを聞き、これまでの生き方をふり返り、そこになががあったのかを見ざるを得なくなりました。神に対して大きな罪を犯してきた自分たちの姿がありました。これまで、なんとかごまかしてきました。しかしもうごまかすことができません。神のさばきがあることが迫ってきました。このままでは、自分たちは神の怒りを受け、さばかれ、滅ぼされていく者であることを自覚しました。そこで町中の人たちは悔い改めのしるしとして荒布をまといまいます。人間だけがそうしたのではない。驚いたことに、家畜にも荒布をかぶらせます。そこまでしなくてもと思います。ばかばかしいようなふるまい

だったのかもしれませんが、彼らはそれだけ真剣だったのです。とにかくその結果、ニネベの人たちは救われました。

かつてヨナが、ニネベの人々のためにしるしとなったように、この時代においては人の子がしるしとなると言われます。言い換えれば、人の子、すなわちイエス・キリストはヨナと同じことをすると述べています。何か同じか、二つあるように思います。

一つ目。ヨナはニネベの人々に叫びました。「もう四十日するとニネベは滅ぼされる。」それはヨナが考え出した作り話ではありません。神がヨナに与えたみことばをヨナはそのまま語ったに過ぎません。同じようにイエス・キリストも神のさばきを語ります。さばきのことばは厳しいと思うでしょうか。さばきのことばより、もっと耳に優しいことばを聞きたいと思うでしょうか。なぜ神は私たちにさばきのことを語るのですか。簡単です。私たちがそのようなことをしたからです。人のものを盗んだ泥棒が捕まえようとする警官に向かって、「どうして私を捕まえるのですか。もっとやさしくしてください」と言ったらだれもが笑うでしょう。私たちがしようとしていることはそれに似たようなことなのです。

私たちは神に対して大きな罪を犯しました。その罪のことをごまかしてはならない。イエスははっきりとさばきのことばを語ります。それが一つ目です。

次に二つ目。ヨナはニネベの人たちにどうしてさばきのことばを語ったのでしょうか。ニネベの人たちをさばくためですか。滅ぼすためですか。いいえ。ニネベの人たちを救うためです。念のため申しておきますが、ヨナは救いたいと思ったわけではありません。ヨナは

最初思ったのです。ニネベの人たちのことなど自分とは関係ない。ヨナは最初ニネベとは反対方向に逃げようとさえしました。けれども神はヨナを捕まえ、ヨナをニネベに無理矢理のようにして向かわせ、神のさばきを語らせます。なぜですか。神はこのように言われました。「あなたは、自分で骨折らず、育てもせず、一夜で生え、一夜で滅びたこのとうごまを惜んでいる。まして、わたしは、この大きな町ニネベのを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるのではないか。」(ヨナ4章10, 11節)

ニネベの人々をさばくためにさばきのことばを語らせたのではありません。救うためです。人々を愛しているからこそ、あえて厳しいことばを語り、救おうとされます。もし罪を犯し続けていたニネベの町の人たちのことを、神が最初から見限っていたのなら、ヨナを遣わすことはなかったでしょう。さばきのメッセージを語らせることもなかったでしょう。ニネベの町の人々は神に反逆していました。それでも神は、ニネベの人々を愛し続け、救おうとされました。

イエスもまったく同じことをしてくださいます。この方は、時には厳しく聞こえるみことばをお語りになるかもしれません。でもそれは、ひとえに私たちを愛し続け、救いたいという強い思いから出ていることを覚えていたいと思います。

### 3 しるしである方を見る

#### (1) 目が健全なら

さて、ヨナの話は32節で終わり、33節から唐突にあかりの話に移っているように見えます。でもそうではありません。しるし

というテーマをはっきりさせるために、あかりのたとえ話を語っていると考えれば、わかりやすいでしょう。

34節。「からだのあかりは、あなたの目です。目が健全なら、あなたのからだも明るいですが、しかし、目が悪いと、からだも暗くなります。」目が見えるのなら、あなたのからだは明るい。ひとことで言えばそんなことを言っています。最近私も年齢とともに目が見えにくくなっているのを感じます。そうすると、私のからだも暗くなるということか。そんなふうに単純に考えてしまいます。でも、イエスはもっと深いことに気がつかせようとわざわざこんなことを語っています。

#### (2) 見なさい

ヒントはこのことばです。31節最後。「ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。」そして32節最後。「ここにヨナよりもまさった者がいるのです。」

「ここに、まさった者がいるのです」と二度繰り返しています。いったいだれのことを言っているのでしょうか。このことは脇に置いたままでした。目のことと合わせて考えれば、イエスはこのように語っているのではないですか。

あなたは自分は健康で視力にも自信があると知っているけれど、あなたの目は何を見ているのだろうか。見るべき方を見ているだろうか。見るべき方はどこにいるのですか。

この方は私たちのあかりだと言います。普通、あかりはどこに置くでしょうか。升の下に置くような者はいない。人々が見えるような所に置くでしょう。それと同じように、光となる方は、私たちの目にはっきり見えるところに立って下さっているはずではないで

すか。そなのに、あなたは見えないというのですか。あなたの目は本当は見ているのです。目の前に立って下さっているのに、「見えないから、はっきりわかるように天からのしるしを見せて欲しい」としきりに言っているのではないですか。だから悪い時代だと言われるのです。

どれくらいはっきりと見えるしるしなのでしょう。この方は、十字架におかかりになりました。遠くにいる者の目にもはっきりと見えるように、十字架に上げられていきます。「私には見えません」このような言い逃れができない。それほどはっきりとしたしるしです。

主は言われます。「見なさい。ここにヨナよりもまざった者がいるのです。」ご自分がヨナよりも偉いと言っているではありません。ヨナがニネベの人たちを悔い改めに導き、救ったのであるなら、イエスはそれ以上に、私たちを救うことのおできになる方である。だからその方を見ていくのだと、教えております。